北海道立女性プラザだより

2023 1 Jan No.62

えるのす

目次

報告　女性プラザ祭2022レポート …… 1
女も男もワイワイセッションリポート … 2・3
イベント紹介 …… 2・3
インフォメーション&トピックス …… 4

報告 女性プラザ祭2022レポート

講演会 『生誕100年・三浦綾子文学の魅力と、女性に贈る言葉の花束』

【講師】
北海学園大学人文学部教授
三浦綾子記念文学館館長
田中　綾さん

旭川出身のミリオンセラー作家・三浦綾子。小学校教師、13年にわたる闘病生活、恋人との死別を経て、1959年、三浦光世と結婚。1964年、小説「氷点」が入選し、無名の主婦だった綾子は42歳にして作家デビューを果たします。「塩狩峠」の連載中から口述筆記を引き受けた光世。夫婦であり、創作活動のパートナーでもあった綾子と光世により紡ぎ出された言葉の数々は、今なお多くの人々の心を癒し、生きる希望と励ましを与え続けています。

田中さんには、綾子の劇的な半生を振り返りながら、どの作品においても端役にいたるまですべての登場人物一人ひとりの人生が丁寧に作り上げられていること、また、「氷点」では登場人物が物語の中で人間的・精神的に成長し浄化されていく過程に、読者自身もまた感動を覚え浄化されていくといった三浦綾子の小説の魅力についてお話しいただくとともに、女性たちに寄り添い、背中をそっと押すようなエール、生きる力を与えてくれる、綾子が残した数々の言葉もご紹介いただきました。

講演の最後には、田中さんが現在連載中の光世の日記をノベライズした「あたたかき日光（ひかげ）―「光世日記」より」の執筆エピソードもお話しいただき、生誕100年の今年、旭川を愛し、北海道に生き、夫婦二人三脚で書き続けた35年の月日に思いを馳せながら、改めて三浦綾子文学の魅力にふれた90分でした。

＊＊つながる・みつかるフェスタ2022＊＊

キラリとした人・物・情報がみつかるイベント「つながる・みつかるフェスタ2022」が、女性プラザ祭に復活しました!

起業し、活躍している女性たちが、自分たちの商品やサービスを披露するイベントで、女性プラザ祭での実施は3年ぶりです。

今回も様々な分野の女性起業家さんが大集合!アロマやリフレクソロジー、占い、メイク関連、パンの販売など15の出展ブースが並びました。

どのブースもワンコインから利用できるメニューを揃えており、気軽にサービスや商品をお試しできる機会とあって、多くのお客様にご来場いただきました!

出展者の皆さま、そしてご来場いただいた皆さま、ありがとうございました☺

女も男もワイワイセッション リポート

LGBTQとジェンダー平等

出演

北海道合同法律事務所　弁護士
加藤　丈晴さん

さっぽろレインボープライド実行委員会
実行委員長
柳谷　由美さん

さっぽろレインボープライド実行委員会
副実行委員長
金子　弘実さん

【コーディネーター】 笹谷　春美さん　北海道立女性プラザ館長

笹谷:まず加藤弁護士にLGBTQをめぐる昨今の状況などをお話いただき、次に当事者のお二人から自己紹介をお願いします。

加藤:LGBは好きなる対象の性、T（トランスジェンダー）は自分が自認している性のこと。どれにも当てはまらない人、分類できない人をQと表現しています。アメリカ版のFacebookでは性の選択肢は男女の二者択一ではなく56種類あります。それくらい性のあり方は人によって違うということ。そして性的指向も性自認も自分の意志で選ぶことはできません。

LGBTQの人は10人に1人くらいの割合でいると言われています。これはAB型の人、左利きの人の割合と同じ。欧米は多いと思われていますが、日本でもどこでも同じ割合で存在します。ありふれた存在なのにも関わらず、いないと思われているのはなぜか。日本社会のLGBTQへの無知や偏見からくるネガティブな風土のためです。こうした社会ではカミングアウトしにくい。そして、いないものと扱われ、社会上の様々な差別も生まれます。

近年は全国各地でパートナーシップ制度ができています。自治体が結婚に相当する関係だと認めた同性カップルに証明書を発行するものですが、婚姻とは違い、相続や税金の控除などの法的効果は一切ありません。

現在、同性婚の実現を求める裁判が全国5カ所で展開されています。G7の中で法的に同性カップルを保護していない国は日本だけです。今日、伝えたいのはLGBTQの人はどこにでもいて、見えていないだけということ。基本的な性のあり方は、権利や尊厳の問題です。

柳谷:私は中学生までは、自分は女性なので当然男性を好きになるものだと思っていました。高校1年生の時に女子から告白され、交際することになったのを機に初めて女性が女性を好きになってもいいのだと知り、その時から自分はレズビアンという認識で生活しています。でもその後、アウティングされ、いじめを受けたり、不登校を経験したり、自殺未遂をしたことも。自分のセクシュアリティや恋愛に10年くらい悩みながら生きていました。

転機となったのは24歳の時。札幌に来てレインボープライドに所属し、LGBTQのコミュニティにも参加する中で、仲間が沢山いることを知り、自分の人生を前向きに捉えることができるようになりました。そうして活動を続け、今日この場所にいます。

金子:女性として産まれたけど、気付けば男の子っぽいものが好きでした。ランドセルも赤色が嫌で、無理を言って緑色に。中学校に入ると制服でスカートを強制され、いつも女装している感覚で過ごしていました。大人になってからLGBTやトランスジェンダーという言葉を知り、初めて自分もその1人なんだと腑に落ちました。友人が治療を始めて男性になっていくのを見たり、自身の身体への違和感などから、男性ホルモンの治療を30歳から始め、2年後には性別適合手術を受けました。その後、裁判所に申し立てし、戸籍を男性に変更しました。戸籍の変更は金銭的負担や制約も多く、そこまでさせる日本社会はどうなんだろうと思っています。同じ立場の友人たちの悩みを聞くうちに、自分も何かできないかとレインボープライドで活動を始めました。

笹谷:LGBTQの活動を通じて感じている課題や今後の展望について聞かせて下さい。

柳谷:大きく2つの問題があると考えています。まず1つ目は、同性婚裁判、パートナーシップ制度などLGBTQについて社会的に少しずつ理解や支援の輪が広がっている一方で、当事者の生きづらさは変わっていない点。当事者の若者を対象に実施したアンケート調査によると、1年間のうちに自殺を考えた10代は2人に1人。うち14%の人が実際に自殺未遂をしています。私自身もいじめを受け、自殺未遂も経験しましたが、20年経過した現在も、社会はほとんど変わっていない。LGBTQという言葉だけは広がりましたが、今後は、皆が生きやすい社会をどう作っていくか具体的に考えていかねばならないと思います。

もう1つは活動団体と学校、病院、企業、行政といったネットワークが薄いこと。現在は各組織が個々にLGBTQの啓発活動などを行っている状態ですが、ネットワークを形成して活動していく必要があります。

金子:トランスジェンダー当事者として、専門外来のある病院やトランスジェンダーに理解のある病院を増やす必要性を強く感じています。ホルモン治療によって見た目は男性になっても体は女性という状態で、婦人科には、人目が気になり通いづらく、そうこうしているうちに病気が重篤化してしまうケースもあります。性的マイノリティでも利用しやすい病院を増やすことが大切です。また、当事者として講演会などでこうしてお話することで、特別な人ではないと知ってもらえるため、今後もこうした機会を増やし、様々な場で発信していきたいです。

笹谷:LGBTQの視点からジェンダー平等についてどう考えていますか。

柳谷:レインボープライドの活動の中でもジェンダーギャップに遭遇することがたびたびあります。私たちの団体は高校生から30代まで男女半々で15人のメンバーがいますが、ゴミ捨てや掃除をするのは決まって女性で、そういった流れが自然と生まれ、当たり前だと受け入れている。LGBTQの団体であっても性別役割分担の意識は埋め込まれていると感じます。私はボーイッシュな外見上、見た目に対する勝手な先入観で性別を間違われることも多い。個々人の意識の問題ですが、定型的な男性像、女性像は捨て、その人自身を見てほしい。性別と見た目がどうであっても関係ないという考え方が、個人レベル、そして学校や社会全体で形成されてほしいです。

金子:自分は元は女性だったから、女性の辛い部分が分かることもあるし、男性になったことで男性の辛い部分が分かることもある。トランスジェンダーであることによって、図らずも男女2つの性を経験できています。その上で思うのは、性別や何かしらのカテゴリで分類すること自体をできるだけ無くすべきということです。マジョリティだろうとマイノリティだろうと、それぞれが思いやりを持って、自分だったらどうだろうと置き換えて考えることが必要ではないでしょうか。

加藤:ジェンダーとLGBTQは同じ地平に属している問題です。どちらも固定観念で人を差別してしまうところから生じている。固定観念をどう壊すかが、誰もが生きやすい社会につながる一番重要なポイントであり、そこは教育が非常に大事です。

性の多様性を小学生の学習指導要領に入れるべきと文科省に働きかけましたが、蹴られてしまいました。固定観念が形成される前に、教育していくことが重要ではないかと思います。

笹谷:私もLGBTQの当事者に寄り添い、支援する人「Ally（アライ）」となって一緒に問題を解決していきたいです。皆さま本日はありがとうございました。

イベント紹介

プラザ祭期間中に実施したイベントの一部を写真でご紹介します。

今回もコロナ禍の開催となりましたが、盛会のうちに終えることができました。ご来場いただいた皆さまには、感染対策等へのご協力ありがとうございました。

オープニングコンサート

ピアノ連弾による迫力の演奏で、聴衆を魅了しました♬

まなび*体験*つながりHIROBA

女性の活躍を応援するイベント。女性起業家や社会参画に興味がある女性たちが交流を深めました。

DVD上映会

上映作品は邦画「最高の人生の見つけ方」。心温まる感動作でした。

プラザセミナー

統計心理学i-colorによって自分の強みや他者との価値観の違いなどを再発見！和気あいあいとした楽しいひとときでした。

プラザぎゃらりい

女性プラザはじめ3施設について活動内容や連携事業をパネルや動画で紹介しました。

女性セミナー

「エシカルとは何？」～なぜエシカル消費が必要か
運営団体:北海道女性団体連絡協議会

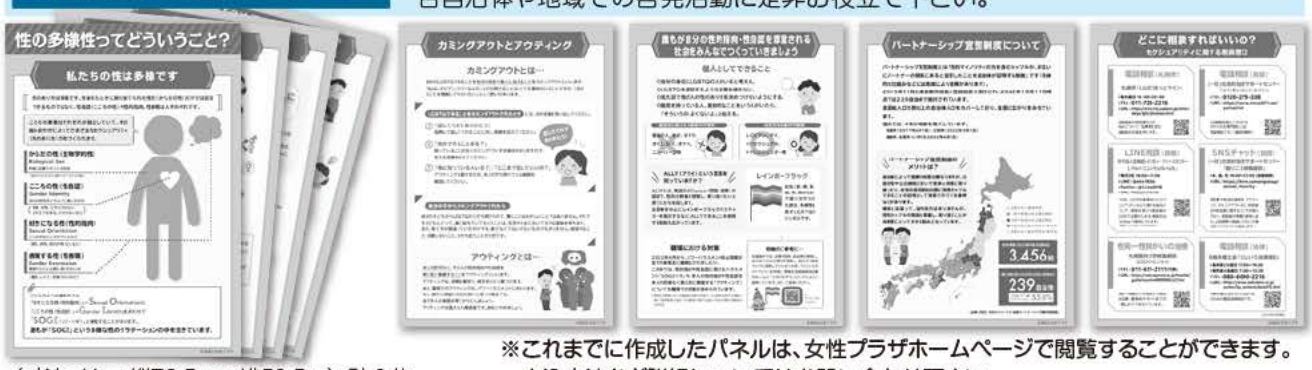
憲法カフェ

「困難な問題を抱える女性支援法」ってなぁ～に?
運営団体:北海道ジェンダー研究会

インフォメーション＆トピックス

パネルの貸出しについて

当プラザでは、所蔵するパネルを無料で貸出ししています。
令和４年度は、LGBTQをテーマに取り上げた「性の多様性ってどういうこと？」を新たに作成しました。
各自治体や地域での啓発活動に是非お役立て下さい。



（寸法／各：縦73.5cm×横52.5cm）計８枚

※これまでに作成したパネルは、女性プラザホームページで閲覧することができます。
申込方法など詳細についてはお問い合わせ下さい。

情報提供フロアより　ピックアップ書籍　令和4年度新着図書から

親子で考えるから楽しい!
世界で学ばれている性教育
上村 彰子 著
講談社

トランス男性による
トランスジェンダー男性学
周司あきら 著
大月書店

私の履歴書
男女平等への長い列
赤松 良子 著
日経BP 日本経済新聞出版

親が子どもになるころに
―てんてん、介護問題に直面す。
細川 貂々 著
創元社

ケアメン講座のお知らせ

■日　時：令和5年3月4日（土）10:30～12:30
■会　場：かでる2･7　6階 610･620会議室
（札幌市中央区北2条西7丁目）
■参加費：500円（材料費）
■定　員：20人
■申　込：電話かメール又は女性プラザ窓口でお申し込みください。
【電　　話】011-251-6349（9時～17時　＊日曜･祝日は除く）
【メ ー ル】info@l-north.jp（l は小文字のLです）
※メールの方は、①ケアメン講座参加希望 ②お名前 ③電話番号を明記ください。
※感染症対策のためオンライン開催へ切り替える場合がございます。

【第１部】男性が介護する時代～ケアラー支援の視点～
講師：さっぽろ社会福祉士事務所　代表　大島　康雄 氏

【第２部】お手軽♪簡単！和食づくり（調理実習）
講師：株式会社 なごみの食卓　代表取締役　坂下　美樹 氏
※調理した料理は、皆で召し上がっていただきます（黙食）。

【交流会】介護についての日頃の悩みや疑問を気軽に語り合いましょう！

Facebook 開設しています。

女性プラザでは、公式Facebookページを開設しています。
イベント案内や開催報告、サポーター団体や関連組織の取組など、様々な情報を逐次発信していますので、ぜひご覧ください。
皆様からの「いいね」や「フォロー」お待ちしています

Facebookはコチラから

https://www.facebook.com/hokkaido.womensplaza

●「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。
●「えるのす」は女性（Lady）の頭文字と、北（North）の造語です。

発行／北海道立女性プラザ（指定管理者：公益財団法人北海道女性協会）
〒060-0002　札幌市中央区北2条西7丁目　かでる2･7　6階　☎（011）251-6329･6349
【ホームページアドレス】 https://l-north.jp/
（休館日：日曜・祝日・年末年始）（開館時間：月～金 9:00～21:00、土 9:00～17:00）＊お問い合せは 9:00～17:00 にお願いします。